

道岳連だより

広報 NO63
平成23年12月1日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

今年も北海道選手大活躍！

第66回 国民体育大会山岳競技山口国体



第66回国民体育大会「おいでませ！山口国体」山岳競技は、10月1日の総合開会式から10月4日の決勝まで4日間にわたって山口県セミナーパークで開催され、北海道選手団は成年男子、同女子ボルダリングでダブル優勝するなど見事な成績を残した。

競技結果

- | | | | | |
|-----------------|-----|----------------|--------|------------------|
| (1) 成年男子 | リード | 10位 | ボルダリング | 1位 (初優勝、昨年は2位) |
| (2) 成年女子 | リード | 8位(入賞) | ボルダリング | 1位 (2年連続、2回目の優勝) |
| (3) 少年男子 | リード | 13位 | ボルダリング | 10位 |
| (4) 少年女子 | リード | 9位 | ボルダリング | 9位 |
| (5) 男女総合成績(天皇杯) | | 5位(4年連続6回目の入賞) | | |
| (6) 女子総合成績(皇后杯) | | 7位(2年連続7回目の入賞) | | |

派遣選手、監督、トレーナー

成年男子	監督	橋村 昭男	選手	國谷 斗馬	杉本 怜
成年女子	監督	一安 敏文	選手	坂本 瑛子	荻原 亜咲
少年男子	監督	木村 宣幸	選手	早坂 翔	佐藤 嘉晃
少年女子	監督	畑野 和宏	選手	橋本 菜稀	佐々木里穂
トレーナー		本堂 雄大			

10月1日の総合開会式に山岳競技が参加するのは兵庫国体以来で、旗手は山岳少年男子の佐藤選手が努めた。

【成年男女】

2日の成年男子ボルダリング競技予選は、昨年の国体で2位を取っているのもそれ以上を狙う。北海道は8課題中7完登で予選を1位で通過する。成年女子ボルダリング競技予選出場の坂本、荻原は昨年の優勝メンバーで今年も優勝の期待がかかる。4課題中5完登以上の7チームが決勝に進出、4完登が北海道を含め6チームあり、決勝に進めるのはこの中から1チームだけで、厳しい状況のもと僅差で北海道が決勝に進出を果たす。

3日のリード予選、北海道は杉本が完登、國谷が35-という結果で上出来と思ったが、10位で惜しくも決勝進出はならず。

4日の成年ボルダリング決勝、男子は1Rの第1・第2課題を1位で通過、2Rの第4課題は二人とも1撃する。最後の第3課題では杉本が厳しいホールドを渾身の力を込めて1撃でゲット。國谷の完登はなかったが、二人の見事なチームワークで優勝を勝ち取る。

女子では、第4課題で坂本がただ一人完登。荻原の2完登を含め劇的な逆転優勝を決める。

【少年男女】

少年男子リード予選では、昨年果たせなかった決勝進出を目指してトライ。両選手とも早いペースで登るものの、早坂が27-で落下、佐藤も32までで、20チーム中13位で予選敗退。

女子では、ジュニア全国大会でも連続入賞している佐々木が実力どおりの登りを見せ35-で個人12位。橋本は下部のリーチ系ムーブに手こずり、結果は僅差の9位と入賞に届かず。

大会2日目の少年男子ボルダリング予選、第1課題は二人とも1撃で完登するものの、結果二人合わせて3完登4撃となり、20チーム中10位で昨年より順位は上げたが予選通過には一歩及ばず。

女子では、佐々木が最難4課題をまさかのショートカットで3撃し、個人14位。橋本は1課題目を全身を伸ばしきって1撃(個人24位)。これが効いて前半は9チーム中3位。最後まで電光掲示板にチーム名が残るが、最後に登場の千葉が7完登し、またも9位で入賞を逃がす。

(競技種別監督の報告書から要約)



成年女子リードの荻原選手

成年男子ボルダリング決勝ラウンジの
体制に入る國谷選手



国体山岳競技北海道7ロック予選会 兼 平成23年度北海道体育大会山岳競技 兼 第52回札幌市民体育大会クライミングコンペ

山口国体に先立ち、8月6日～7日にかけてノースケイプジム(ボルダリング)及び道立総合体育センター 北海きたえーる(リード)を会場に、北海道山岳連盟主管で開催された。

国体種目による予選会は、成年男女、少年男女合わせて70名がエントリーし、北海道代表権を競った。また、札幌市民大会のみのカテゴリーとしてのキッズ競技やトップロープ仕様のビギナー競技も同時に実施されている。

祝 山口国体成年ダブル優勝 国体祝勝会

10月28日、札幌大通りにあるレストランの一室を借りて、山口国体の祝勝会を開きました。今大会では、ボルダリングにおいて成年男女ダブル優勝、成年女子二連覇、加えて天皇杯4年連続入賞という北海道山岳競技史上最高の快挙とあって、たくさんの人がお祝いに駆けつけてくれました。

今回の結果は、何よりも選手の努力とそれにより培ってきた技量、そして監督やトレーナーのサポートが大きかったことはもちろんですが、選手を応援し支えてくれた多くの人たちの力によって成し遂げられた快挙です。あらためてお礼申し上げます。

祝賀会の終わりに選手一人ひとりから挨拶をいただきましたが、複数の選手から、感謝の言葉とともに、将来は選手の指導にも携わりたいということが述べられ、力強く感じました。例えば、今回の成年選手のうち多くが子どもの頃からクライミングを始め、道岳連主催の各種大会や強化合宿を通じて育ってきた選手です。そんな彼らが今や全国の頂点に立ち、さらに将来は指導者として次世代を育てていきたいと決意を表明するにいたって、感慨もひとしおです。これまでご尽力をいただいた関係者の皆様にただただ感謝です。

これからも北海道の山岳競技発展のためよろしく願いいたします。

選手の皆さん、本当におめでとうございます。

競技委員長 山納 秀俊



競技結果

(カテゴリ別優勝者のみ掲載 リザルト詳細は北海道アウトドアフェスティバル公式HP参照)

5km 男子	野中 歩	23:09 (33 選手)	5km 女子	山石沙也加	28:03 (14 選手)
15km 男子	寺林 拓人	1:14:58 (65 選手)	15km 女子	青嶋ひかる	1:32:34 (11 選手)
30km 男子	鏑木 毅	3:08:42 (29 選手)	30km 女子	長谷川桃子	4:14:57 (8 選手)
50km 男子	石橋 恭	6:04:17 (61 選手)	50km 女子	赤城のぶ子	7:39:26 (5 選手)

() 内は当日エントリー数

… ご協力に感謝して …… 大会実行委員長(道岳連副会長) 佐藤 真

9月24日、本大会は怪我人もなく無事終了いたしました。各カテゴリの優勝、上位入賞者の皆様のご活躍に賛辞を贈ります。本当におめでとうございます。

また、参加をしてくださったトレイルランナーの皆様、ご協力をくださった各界のたくさんのボランティアの皆様にご感謝申し上げます。取り分け北海道山岳連盟五十余名の皆様には登山シーズンの秋の連休にもかかわらず、一生懸命仕事をしていただきました。その償いに十分に返ることができな

かったことにお詫びを申し上げますとともに、深く感謝申し上げます。

参加申込みは256名を数えましたが、目標にしておりました300名を越えられなかったのは残念でしたが、昨年の172名を大きく上回ったのは来年に期待を持たせるものでした。しかし、本年も赤字にはならなかったものの、余剰金を上げることが出来なかったのも残念なことです。会計は確定しましたら後日報告させていただきます。

さて、運営についてです。実行委員会は昨年の大会を終了した後すぐに準備に入ったわけですが、結果的には準備不足が露呈してしまいました。コースを示す標識の不足、昨年までありました看板の不設置、スタッフの教育不足、コースの確認不足等やるべきことが十分にできていなかった次第であります。毎年コースを変えスタート・ゴール地点も毎回異なりました。前年より少しでも面白いコースづくりを心がけた結果でした。そして今年が一応の完成形と考えておりましたが、3年目を迎え少々運営に慣れてきてそこに油断が生じました。その一例が30km・50kmの上位選手をスタッフが間違えて誘導したこと、順位確定の作業でもミスを犯してしまったことです。残念でなりません。

それでも不利益を得て順位を落とした選手の皆さんには「それもトレランさ」と、その結果を受け入れていただきました。

以下に反省点をまとめました。

1 準備不足

①物品の用意が間に合わなかった。コースを指示する紅白のテープが足りなく、用意ができたのは台風の影響もあり当日であった。また、看板も本体と矢印はそれぞれ出来ていたが、合体する時間がなく使用できなかった。

②コース設定の終了が大会前日の夕暮れで、暗い中での作業となった。このことに象徴されるように明確なコースづくりができなかった。

2 認識不足

①大会も3回目となったので、スタッフも慣れたものと過信してしまった。不十分なコースづくりであったのに、担当者は十分と考えていた。シンプルでよいと考えていた。従って、スタッフへの説明・確認が不足していた。

②コース上の地主の立入禁止テープを見逃すなど、最後のチェック不足があった。

以上の反省点について原因を考えると、過去2回の大会がオリエンテーリング協会に大きく依存した運営を、自分たちがうまくやったように錯覚した傲慢さにあったと考えます。

次年度は同じコースで実施しますが、冬の間に出来ることはすべて用意して道岳連主導の運営体制を整え、完璧な運営で尚且つ300名を越える参加者を得て、道岳連に利益をもたらすようがんばりたいと思います。

昨年まではスタッフの皆さんをスキー場の怪しげなゴンドラ駅の冷たいコンクリートの上に寝せて申し訳ないことでしたが、本年はきちっとしたログハウスに宿泊していただきました。私といたしましてはほんのちょっとですが、良かったなと思えるところです。

最後に、トレイルランの大会を私たち北海道山岳連盟が主管することについては、いろいろご意見がお有りとは思いますが、もう少々時間とご理解をいただき、来年以降も引き続きご協力をお願い申し上げます。



… トレラン風景 …………… えぞ山道会 神山 健

心配していた天候も良く、一部トラブルはあったものの、無事終了しました。私の受け持ちはD2ポイントで、30kmコース(10km地点 23km地点)と50kmコース(10km地点 35km地点 44km地点)が尤も複雑に交差するポイントでした。ここは救護所・給水所であり3つの関門でもあるとて、えぞ山道会3人と札岳連2人が役割を担いました。そこで見聞きした話題をご紹介します。

【選手の様子】30km・50kmともに1回目の通過は元氣よく黙々と通過していきましたが、2回目となるとバラツキ度も大きくなり、水を何杯も飲む人、あと何キロと気にする人など様々でした。特に遅れ方の大きな人の疲労度がひどく、最後まで走れるのか心配な人が出てくるようになりました。

50kmの選手の中には役員の手持ちの菓子などを貰いながら話し込んでいく者もいました。同じチームの選手の動向を聞いたり、待ち合わせたりすることもありました。皆が皆あくせくと競技するというよりも、レースを楽しんで味わっているような様子が出てきたようです。

中には完走さえすれば満足などと、すっかり腰を落ち着ける選手もいました。

50kmも3回目となると忘れた頃に選手が現れるという状態になり、5分以上も腰を落ち着け、茶目っ気のある役員が「肩を揉んでやろう」といえば「お願いします」とのんびりする選手もいました。

2回目で「私この先行けるだろうか」と言いながら通過していった女性選手が、3回目に姿を現した時は、役員一同嬉しくて声を掛けたり、サービス過剰の世話を焼いたりで大変でした。

さすがに今大会で3回目とて、三分の二ほどの選手は、昨年よりかなり早いタイムで通過し、これなら今年は早く終了するのではと期待が膨らみましたが、50kmの最後の数人はすっかり遅れて、17時の関門閉鎖に間に合いませんでした。

【参加状況】大会の中核を担ったルスツリゾートの信原さんの分析を本に状況を書いて見ます。

距離別では、15kmコースが最も多く88名、以下50km73名、5km53名、30km38名でした。

参加者の所属都道府県では全体の80%が北海道でしたが、関西以西の参加者もあり、遠く沖縄からも参加していました。遠くからの参加者は30km・50kmと距離の長いコースに挑んだ人が多く、50kmでは関東と関西以西、30kmでは東北と関東が目立ちました。道内出は札幌周辺が圧倒的でした。

沖縄から参加した選手の話「北海道に旅行するついでに何かしたいなとパソコンで探したら、丁度いいのがあって参加しました。沖縄ではトライアスロンをしていましたが、トレランはそれよりもきついですね。トライアスロンは意外に自転車でも休めるんですよ。トレランは上りも下りも自分の足で、休む間がないので疲れしました。それでも景色がよくたっぷり楽しみました。」

参加者の年齢は圧倒的に30代・40代が多く三分の二、以下20代・10代・50代の順で、60代以上70代の選手も見かけました。20代・10代・50代の選手の差は余りありませんでした。意外なことは30kmの参加者が20代より50代の方が多かったことです。

第1回 レディースデイ 9.10-11

女性だけで、自立した安全登山の普及と技術の向上を目的に、第1回の研修登山会を9月10～11日の2日間、参加者15名にて開催しました。

1日は好天の中、留辺蘂の丸山(769m)で、地図読みとコンパスの使い方の学習を行いました。登山道のない藪山を、実際に地形図にコンパスを当て、進行方向を定め、周りの地形を確認しながら登り、山頂では山座同定や現在地の確認方法を学習しました。女性は地図読みが比較的苦手な分野ですが、とてもわかりやすい説明に、参加者の皆さんがコンパスの使い方を覚えようと真剣に取り組んでいました。

1日目の研修を終え、宿舎は滝の湯センターの「夢風泉」でした。入浴後も再び机上で地図読みとコンパスの復習を行いました。思い込みなどで道迷いをした時に、行動を的確に判断するためにも地図読みが重要だと認識できたように思います。その後の交流会は女性だけということもあり、勿論気を遣うこともなく宴も盛り上がり、親睦を深めながらレディースデイの命名や、今後の研修の意向等に話がはずみ、約束の消灯時間も忘れ語りが続いていたようです。

翌日2日目も天気に恵まれ、計画通り北大雪の武華山から武利岳縦走登山を行いました。登山道の要所で地形図にコンパスを当て、前日に学習した山座同定や現在地の確認をしながら、遠くアップダウンのある厳しいコースでしたが、10時間30分かけて全員が完走しました。

※「仮称」レディースディの命名

「パワフルレディース」に決定

第1回目研の修会に参加した皆さんの、「山を楽しみながら、知識と技術を深め、いろんなことに挑戦しよう」というパワーと意気込みがあって、この名称に決まりました。

報告者 釧路山遊会 下山 シゲ子



丸山頂上で山座同定を学習



武利岳頂上

レディースディ登山に参加して

こぶし山岳会 大江 淑子

どんな山に登るかは二の次で「女性だけの登山」という言葉に惹かれて参加しました。いつものこぶし山岳会の山行も圧倒的に女性が多いし、グループ山行でも女性だけということはありませんが、他の山岳会の女性達との宿泊研修はどんなものなのか楽しみでした。(不安もちょっとあり)

1日目、札幌ロビンアの酒井さん指導のもと、登山ルートが無い丸山を地図読みしながら頂上を目指しました。たどり着いたらこんな藪山に先客がいて皆びっくり。そして下山も地図読みをしながら歩きましたが、登ってきたルートからはいつの間にかはずれていて、車道に出てみると結構ずれていました。下山の方が難しい。(;-;) 酒井さんは優しく繰り返し何度も教えてくれて、感謝感激でした。

2日目、武華山登山口から武利岳を目指しました。急登、急下り、頭も隠れる位の藪こぎもあり、やっと尾根に出て岩場をヨイショヨイショと歩き、もう少しで頂上。すれ違った登山者に「お連れ様が頂上で待ってますよ。」と言われ、みんなの「え〜！」がこだました。頂上に着くと「お疲れ様〜」と、参加者の山仲間が笑顔で迎えてくれ、温かいポタージュを全員にごちそうしてくれました。そして360度、山ばかりの眺望に感動しました。体力的にかなり厳しい登山で、これが自分の限界かなと感じました。

2日とも好天に恵まれ、命名「パワフルレディース登山会」は内容も充実していて、予想以上に楽しく心に残りました。

最後になりましたが、日程、資料等を事前に郵送し、この研修会を仕切り、上手な登山リードをしてくれた下山さん、釧路の皆様、本当にありがとうございました。

第25回北海道山岳連盟交流及び研修登山会 阿寒大会

25回目を迎えた北海道山岳連盟交流登山会は、8月27日(土)～28日(日)にかけて釧路山岳連盟が主管し阿寒湖周辺で開催された。今回の登山会は一般登山道のほかに、2つの自然環境調査コースなど全9コースの設定である。開会式・閉会式及びキャンプは環境省から特別に使用許可を受けたという阿寒湖畔スキー場。1日目のメインイベント焼肉交流会は、320名を越える参加者が広い駐車場を埋め尽くし壮観でもあった。

2日目の登山は、快晴の空のもと、参加者は活火山阿寒のダイナミックな大自然を満喫し、麓の温泉で疲れを癒していた。大会運営に尽力された釧路岳連の皆様へ心よりお礼を申し上げます。

コース別参加内訳 ①阿寒湖～野中(雌阿寒)温泉縦走コース 24名 ②阿寒湖～オンネトー縦走コース 91名 ③野中(雌阿寒)温泉～阿寒湖縦走コース 42名 ④オンネトー～阿寒湖縦走コース 50名 ⑤雄阿寒岳コース 37名 ⑥雌阿寒川～阿寒湖コース 20名 ⑦雄阿寒岳旧道コース 27名 ⑧雌阿寒岳野中温泉コース 12名 ⑨白湯山自然探索コース 26名



開会式(阿寒湖畔スキー場)

剣ヶ峰を仰ぐ(2コース)



各委員会事業・行事報告

事務局・総務

第2回 理事会 10/16 札幌市民ホール

平成23年度第2回理事会は、札幌市民ホールを会場に38名の理事が出席して開催された。議事は1号議案 平成23年度前記事業報告 2号議案 平成23年度会計収支状況中間報告 3号議案 平成23年度後期事業予定 4号議案 創立60周年記念事業が上程され、原案通り承認された。

上期事業では、安全登山講習、女性リーダー育成事業、スポーツクライミング指導者養成講習などが成果をあげた一方で、各委員会事業の一部が中止になるなど全般的に参加者が減少傾向にあり、その対策が必要となっている。また、行事が多岐にわたり、参加協力体制が十分とはいえない状況もあることから、行事の一部を傘下各団体に分担してもらおう方法なども今後検討したいと理事長から報告があった。

次年度の連盟創立60周年記念事業は ①祝賀会 10月20日(土) 札幌市 ホテルライフオー
②60周年記念誌 ③全国自然保護委員会総会招致(原案 9月8-9日 十勝岳周辺) ④DVD山岳スキ
ー教程作成 ⑤第26回北海道山岳連盟交流登山会(札岳連主管) ⑥ネパールヒマラヤ遠征(6,000m峰
登頂とトレッキング)が提案された。

第3回北海道山岳団体交流会 10/20 札幌市 レストラン大公

平成20年から開催されている道内主要山岳団体の交流会が、今年も札幌市で開かれた。今年度から
北海道山岳ガイド協会も参加し、日本山岳会北海道支部、札幌山岳連盟、北海道山岳ガイド協会、北
海道勤労者山岳連盟、道央地区勤労者山岳連盟、北海道山岳連盟の6団体42名が出席した。

第50回全日本登山体育大会福岡大会 10/28-30 福岡県

日本3大霊場英彦山(ひこさん1200m)・北部九州のカルスト台地と山伏が歩いた秋峰コースを会場に、
50回目の全日大会が全国から約200名を集めて福岡県で開催された。道岳連からは小野会長、土屋副
会長、荒堀普及委員長、佐藤自然保護委員長が英彦山縦走コースを歩き、800年以上の修験道の霊場
を体感した。来年は福井県の荒島岳他5コースで10月27~29日に開催される。

日高登山研修所納会 11/5-6 日高登山研修所

今年度の納会は、加盟岳連・山岳会から53名、運営委員8名の合計61名が参加して開催された。
1日目は大掃除、冬囲いを済ませた後、国体優勝報告とDVDによる競技の様子が橋村監督から紹介
された。交流会は千栄生活館に会場を移して、こぶし山岳会の皆さんが用意した夕食を囲み、毎回好
評のオークションでは新品同様の登山ウェアなど多数の品が提供され、アトラクションも大いに盛り
上がる。

翌日は、2班に分けた研修所近郊の藪山「銀嶺山(723m)」の登山組と上滝ロック登攀組、室内では
応急手当・三角巾の講習を行い午後に解散した。

指導委員会

上級指導員検定会 10/22-23 日高登山研修所&上滝ロック

上級指導員(アルパインクライミング)無雪期
検定会を日高研修所と上滝ロックを会場に受検者
16名で実施しました。登攀を中心にしたメニュー
で、それぞれが日頃の活動を「指導できる」こと
を自から実践することに汗を流して真剣に取り組
みました。

2日目はあいにくの天候で、体育館での実技と
なりましたが、休む間もなく課題を要求され、受
験者も必死の形相でした。

報告者 指導委員長 明田 通世



海外委員会

高所登山講習会・in 富士山 8/20-22 富士山

8/20(金) 8時新千歳空港発の JAL500 で羽田空港へ。羽田空港よりレンタカーで富士山須走口シャトルバス乗場に行き、タクシーに乗換。5合目までの間にある「和製グランドキャニオン」へ往復40分のハイキング。待たせていたタクシーで5合目へ。14:30頃に5合目小屋へ到着し、「小富士」へ往復40分位のハイキング。5合目小屋にて宿泊。

8/21(土) 昨夜よりの雨が弱まるのを待ち、7時過ぎに5合目より登り始める。8合目手前までは青空が覗く天気の中を登る。8合目辺り上部に上がるにつれ雨と風が強くなり、13:35頂上に何とか到着。剣ヶ峰に登れる状態ではないので、小屋で布団などが敷かれるまで暖かいものを飲んだりして待機。

8/22(日) 雨は一晩中風とともにひどい。3時半に起床させられ、4時前に外で待機している人たちの休憩所となる。みんな寒さに震えながらも登頂。我々も朝食を食べ明るくなり始めた5:20頃に下山開始。9合目辺りに来ると風は弱まるが、強い雨の中の下山となる。7合目辺りより曇ったり一時雨の中をひたすら下山。ひざに力が入らない人が出て、抱えながらも8時過ぎ5合目へ到着。

下界は雲が厚く富士山の姿は見えないながらも、入浴して羽田空港へと戻り、18時過ぎに新千歳へと戻り解散した。

【総括】 北海道山岳連盟主催で、日本一の富士山頂に宿泊して高山病を体験する講習会であったが、台風の影響で8名のうち道岳連傘下の会員が2名キャンセルとなり、一般4名と岳連2名(共に役員)の6名となったのは残念であった。

天気は様々で、剣ヶ峰登頂は逃がしたが、高度による天気や気温、風の度合い、空気の濃度等の変化を感じながらの登山であった。

また、高山病の初期症状で歩行速度が遅くなったり、呼吸が苦しくなったり、軽い頭痛になるなどの症状が出る人もあったが、重篤者は出ず貴重な体験をすることができ、まずまずの成果であった。

来年も続けて貴重な体験を積んでもらうのもいいかと思う。



報告者 海外委員長 工藤 寛

競技委員会

第14回 JOC ジュニアオリンピックカップ大会 8/14-16 富山県

日本オリンピック委員会と日本山岳協会が主催し、8月14日から16日までの3日間富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンターで開催された。出場選手は男子136名、女子81名で、北海道選手団は6月に札幌で行った選考会で選抜した男子5名と女子4名が参加した。

決勝に進出した北海道代表選手は、女子ユースBの小竹芽生選手と佐々木里穂選手で、小竹が3位佐々木が6位と健闘した。畑野監督は大会レポートの中で「3日間を振り返って、決勝進出者は昨年の5人から大きく減ってしまったが、早坂、三上、小山のように全国の中盤にまで食い込めるようになった選手もおり、北海道の選手のレベルは決して下がってはいないと感じる。しかし、決勝を目指すには、より高い意識とトレーニングも必要かと思う。また、フェリーでの移動や5泊6日の長旅に耐える精神力と、試合前、大会中も通したケガの予防や健康管理も結果を左右すると感じた」と記している。

第10回スポーツクライミングジュニアカップ北海道 9/18-19 レインボークラブ

スポーツクライミングの普及とジュニア育成を目指すジュニアカップも10回目を迎え、レインボークラブを会場に、18日はロープ競技、19日はボルダリング競技で実施された。参加選手53名はジュニアA(小学校1~3年生)、ジュニアB(小学校4~6年生)、ジュニアCw(中学・高校女子)、ジュニアCmB(中学・高校男子)、ジュニアCmA(中学・高校男子)の種目に分かれて技術を競った。

未来のクライマーたち →



第10回スポーツクライミング北海道選手権大会 10/16 美唄高等学校

高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会を兼ねたこの大会は、美唄高等学校クライミングウォールを会場に、北海道山岳連盟と北海道高等学校体育連盟が主催して開催された。ジュニア男女とオープン、ビギナー、キッズに75名の選手が参加し、リード競技ジュニア男子は菅原宏介選手(遠軽高校)、女子は橋本菜稀選手(遠軽高校)、オープンは青木寛敬選手(レインボークラブ)、スピード競技は吉田祐生選手が優勝した。

自然保護委員会

自然保護委員総会 10/15-16 鳥取県大山

平成23年度の全国自然保護委員総会は、鳥取県西伯郡大山町で開催され、佐藤自然保護委員会委員長が出席した。1日目は全国自然保護委員長会議、総会の後「大山山頂保護30年の歩み」を県岳連会長が講演し、登山者の増加で荒廃した大山山頂の保護と修復活動を報告した。

2日目は、大山頂上視察コースと大山寺周辺一斉清掃参加コースに分かれて行動し、閉会式で次年度の開催地は北海道十勝岳周辺、日程は9月8~9日の二日間とすることが確認された。

今後の諸行事

冬期遭難対策研修会(遭難対策委員会主管)

1. 日 時 平成23年12月17日(土)~18日(日)
2. 会 場 ニセコ五色温泉(自炊棟) ※宿泊は自炊となり、全員で食事の支度を行います。
3. 日 程 1日目 13:00 温泉にて受付
13:30 開講式 技術研修、机上研修
2日目 8:00 登山及び技術研修
13:00 閉講式
4. 研修内容 ①冬山の地図読み
②冬山レスキューの実践(携帯電話を使った通信要請)

- ③ニトヌプリ登山(積雪の状況により変更あり)
5. 参集範囲 北海道山岳連盟会員及び一般山岳愛好者
 6. 募集人員 25名(先着順)
 7. 参加経費 8,000円(宿泊費、食料費、講習会費、その他諸経費)
2日目の昼食は行動食として持参のこと
 8. 持 物 冬装備 スキー又はスノーシュー(スコップ、ゾンデ棒、ビーコン)
ヘルメット、ハーネス、カラビナ5、シュリング5、ツェルト
 9. 申込方法 申込用紙に記入し12月7日(水)までに下記住所にお送りください。
郵送 〒080-0341 音更町字音更西1線17番地
遭難対策委員会 斉藤 邦明 電話(FAX) 0155-42-4175

山岳スキー技術指導員研修会(指導委員会・山岳スキー技術運営委員会主管)

1. 日 時 平成23年12月23日(金)～24日(土)
2. 会 場 札幌国際スキー場及び白井岳(宿泊 定山溪グランドホテル 別館 福寿苑)
3. テーマ パウダー滑走技術指導法の研究(ゲレンデにおける練習方法)
①ベーシックテクニックの研究
②応用テクニックの研究
4. 日 程 23日 10:00 札幌国際スキー場(リフト券売場前の広場「鐘」集合)
10:00-15:00 スキー場ゲレンデにて実践研究
15:00 福寿苑へ移動
17:00-18:00 2011-12 シーズン山岳事業計画、DVD制作等について他
24日 8:00 札幌国際スキー場・白井岳へ登行
15:00 終了予定
5. 対 象 北海道山岳連盟認定 山岳スキー技術(指導員・準指導員・リーダー)資格者
6. 募 集 20名
7. 参加費 8,500円(一泊2食 懇親会含む ※リフト代は個人負担)
8. 申込・締切 平成23年12月16日(金) までFax 又はMail
9. 担 当 荒堀 英雄 Tel&Fax 0155-36-2226 Mail tomhero@eagle.ocn.ne.jp
秋元 節男 Tel&Fax 011-583-3016 Mail akimoto@s@jcom.home.ne.jp

山岳スキー技術講習会(指導委員会・山岳スキー技術運営委員会主管)

1. 日 時 平成24年1月14日(土)～15日(日)
2. 会 場 日高国際スキー場及び日勝ピーク(宿泊 国立日高青少年自然の家)
3. 内 容 ①基礎スキー滑走と深雪滑走
②シール登高技術とルートファインディング
③山岳スキーセルフレスキュー
4. 日 程 14日 9:30 日高国際スキー場リフト券売場前集合
10:00-15:30 スキー場ゲレンデ内滑走
15:30 国立日高青少年自然の家へ移動
15日 8:00-14:00 日勝峠へ 日勝ピークへ登高し実践山岳スキー
14:30 終了予定
5. 対 象 北海道山岳連盟会員
6. 募 集 20名
7. 参加費 6,000円(一泊2食 懇親会費別 ※リフト代は個人負担)
8. 申込・締切 平成24年1月6日(金) までFax 又はMail
9. 担 当 藤木 晴夫 Tel&Fax 0143-85-5897 Mail fuji8ma@nifty.com

豎谷 淳 Tel&Fax 0156-67-7633 Mail tateya@snow.plala.or.jp

10. 特記事項 初心者の方(登りや滑りがゆっくりな人)対象のグループを設けて親切丁寧に指導します。是非ご参加ください。

氷壁技術講習会(海外登山委員会・指導委員会主管)

1. 日時 平成24年1月21日(土)～22日(日)
(指導員資格更新義務研修対象事業)
2. 会場 層雲峡 銀河の滝周辺 (宿泊場所 層雲峡温泉 ペンション銀河)
3. 日程 21日 11:00 銀河の滝駐車場(各自で集合)
12:00 基本動作の確認 ロープやアックス操作等
15:00 宿舎移動
17:00 入浴・夕食
19:00 机上講習 支点の設置やセルフレスキュー等
22日 8:30 銀河の滝周辺にて各自の技術レベルに応じたコースでの登攀
14:00 終了、解散
4. 参加費 15,000円(宿泊代・夕朝食代・講習会費含む)
※キャンセルの場合、それに伴う実費がかかります。
5. 対象 北海道山岳連盟加盟団体会員(初心者歓迎)
6. 定員 30名(定員になり次第締め切ります)
7. 持物 昼食(行動食)、長靴(川を渡るのに使用)、ストック、冬装備、ヘルメット、ハーネス、アイゼン、アックス類、クライミングロープなど
8. 保険 講習会での事故については応急の処置は致しますが、それ以上の責任は負いませんので、各自クライミング時の事故を担保する保険に加入してください。講習会時だけの保険もご紹介いたします。
9. 問合・申込 申込み締切り 平成24年1月5日(木) ※宿泊予約の関係上、期限厳守
所定の用紙に記入して工藤 寛までFAX又はメールして下さい。
TEL&FAX 011-386-2725(7:00～20:00) e-mail elm-yama@h7.dion.ne.jp(24時間)
10. 振込先 郵貯「ぱるる」 記号 19090 番号 37051291 口座名義 北海道山岳連盟国際部
※参加料振込み期限 1月12日(木)

冬山安全登山講習会1(山スキー&スノーシュー)

1. 期日 平成24年1月28日(土) 29日(日)
2. 会場 ニセコ(チセ・ニト・イワオ) (宿泊) 五色温泉別館
3. 参加費 12,000円(会員8,500円)
4. 持参品 山スキーまたはスノーシュー用具一式
地図、コンパスほか。用意できる人はビーコン、スコップ、プローブ
5. 内容 山スキー班 1日目 チセヌプリスキー場で、山スキーの基礎実習
(シール登はん、深雪滑走のベーシックテクニックほか)
宿泊会場で冬山安全登山講座。
2日目 五色温泉からニトヌプリを目指して、読図と深雪滑降など

スノーシュー班 1日目 チセヌプリスキー場と周辺で、スノーシューテクニックと
林間ハイク実習。宿泊会場で冬山安全登山講座。
2日目 五色温泉からイワオヌプリへ地形を観察しながら登山
6. 申込 北海道山岳連盟普及委員会普及委員長 荒堀英雄
メール: tomhero@eagle.ocn.ne.jp tel & fax : 0155-36-2226

郵送：帯広市西二十条南4丁目45-17

申込書（HP掲載）に記入して上記申込先までお送り下さい。

申込書の受理、参加費送金の確認後【実施要項】をお送りします。

振込先：銀行名：ゆうちょ銀行 加入者名：北海道山岳連盟

①ゆうちょ口座からの振込(ATMからの振込手数料無料)

【記号：19050 番号：39987961】

②一般金融機関からの振込

【店番：九〇八 口座番号：3998796】

冬山安全登山講習会2(山スキー&スノーシュー)

1. 期 日 平成24年2月18日(土) 19日(日) (宿泊) 国立日高青少年の家
2. 会 場 日勝峠周辺(国際スキー場・日勝ピーク・沙流岳・ペケレベツ岳)
3. 参加費 10,000円(会員7,000円)
4. 持参品 山スキーまたはスノーシュー用具一式
地図、コンパスほか。用意できる人はビーコン、スコップ、プローブ
5. 内 容 山スキー班 1日目 日高国際スキー場で、山スキーの基礎実習
(深雪滑走のベーシックテクニックほか)
宿泊会場で冬山安全登山講座。
2日目 日勝峠駐車場から日勝ピーク～ペケレベツ岳方面
読図とツリースキー(パウダー)の醍醐味を味わう
スノーシュー班 1日目 日高国際スキー場周辺で、スノーシューテクニックと
林間ハイク実習。宿泊会場で冬山安全登山講座。
2日目 日勝峠駐車場から日勝ピーク～沙流岳方面
6. 申 込 冬山安全登山講習会1と同じ

山岳スキー講習会及び検定会

1. 期 日 平成24年2月25日(土)～26日(日) 9:30 白銀荘前集合
2. 会 場 十勝岳温泉郷 三段山周辺(宿泊 吹上温泉保養センター 白銀荘)
3. 参加料 8,000円(交流会費は別途)
4. 対 象 検定受験者及び講習のみ参加希望者
5. その他 詳細は次号掲載(道岳連HPには掲載済み)

道岳連だより 北海道山岳連盟広報 No.63 平成23年(2011) 月 日発行

発 行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区平岸2条9丁目1-47-502

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄